

それって、間違った固定観念ではないですか

スマホ普及により、入ってくる情報量が格段に増えました。例えば、ちょっとした空き時間や電車に乗っている時、スマホのニュースを流し読みしている人は少なからずいるのではないのでしょうか。スマホがなかった時代を考えてみて下さい。その頃、ちょっとした空き時間や電車の中、何をしていたのでしょうか。本や新聞を読んでいた人もいたでしょうが、寝ていた、何もしていなかった人も多かったのではないのでしょうか。

その状態と、常にスマホが手元にある状態、明らかに入ってくる情報量は違います。

それ自体は、悪いことではありません。電車の遅延も、すぐにわかるようになりましたし、高速道路の渋滞情報も、リアルタイムで手に入るようになりました。

しかし一方で、情報氾濫により、間違った固定観念・先入観を持つてしまうことがあります。

例えば、『若者はテレビを見ない』。これは正しいのでしょうか。そんなことはありません。確かに、テレビではなくネット見る人は増えたでしょう。しかし、全員が見ないわけではありません。実際、ある会社の新人研修で「皆さんはテレビ見ないのですか？」と聞いたら、「見ますよ。朝は時計代わりになりますし。」と、即答されました。

このように、まことしやかに言われていることでも、実は正しいとは言い切れないことが沢山あります。問題なのは、どちらかというビジネス上ではネガティブな内容が多いことです。

正しいとは言い切れない、間違った固定観念例
1. 若手社員は厳しい指導を嫌う
2. 若手社員は飲み会を嫌う
3. 若手社員は欲がない
4. 同じ会社に長く務めようとする社員は少ない
5. 値上げは非常に難しいもの
6. お客様は多忙、アポがなかなかとれないもの
7. お客様は多忙、長い商談時間はとれないもの
8. 深いリサーチをすると、お客様は嫌がる
9. クロージングすると、お客様は嫌がる
10. トップとは、なかなか会えないものだ
11. あの会社、〇〇だから（例：競合が強いから）取引することはできない
12. うちの会社の規模では、優秀な社員の採用は難しい

このような固定観念により、できる事柄を、最初から諦めてしまうことはないのでしょうか。さらに問題なのは、会社全体が間違った固定観念に支配されていることがあることです。実は、それが、業績が伸び悩む大きな原因であることが少なくありません。

弊社では、誤った固定観念に気づいてもらい、業績向上を図ったり、モチベーションを上げるお手伝いを数多く行っています。

是非、ご興味ある方は、ご連絡を下さい。



> お問い合わせはこちら